

# 名戸ヶ谷ビオトープだより

第 57 号 2014 年春号

<http://nadogaya-biotope.org/>

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会 発行

発行責任者：篠崎 将 Tel/Fax 04-7173-6353

## 2014年の田植え

今年も田植えの時期になりました。もち苗は宮城県大崎市産の「ミヤコガネ」うるち苗は千葉の「コシヒカリ」を藤心ライスセンターで育苗し、5月5日に引き取りました。6日(振替休)は雨模様の肌寒い天気(気温が10℃)でしたが、会員15人が参加し、もち苗とうるち苗の一部を植えました。前日に田んぼの草を取り、当日早朝にオサ(線)を引いて準備しました。



パンダが見ている田んぼでの田植え

### 小さな応援者が参加してくれました



田んぼに入るまでが大変ガンバレ

10日(土)は暖かく、田植え日和となりました。多くの会員と近隣の親子が手伝って(?)くれました。ドロンコに足を取られて思うように進めませんが、会員の付添いもあって無事植えることができました。是非稲刈りにも挑戦してください。本当にお疲れ様でした。(小笠原 智)



軽トラをレンタルして苗を引き取り



ドロンコ顔もかわいい



お母さんも田植えに挑戦



## ニホンアカガエルの卵塊調査

3月1日、ビオトープの春の訪れの兆しであるニホンアカガエルの卵塊調査を開始、うるち田5番ともち田3番で多く発見されました。3月1日から3月21日まで6回実施して詳細は下記の通りです。今年2月は降雪など寒い日が続き3月によく春らしい陽気となりました。

卵塊のピークは3/6と3/10です。毎年うるち田No5は安定して多いです。昨年ピーク

は3月20日の38個(A:36、B:2)、今年は急増し過去最高数でした。因みに各エリアのピーク数を合計すると79個です。17日頃から卵塊崩れて孵化した「おたまじゃくし」を確認しました。最終日はほぼ全てが崩れて確認出来ずに代わってアズマヒキガエルの長いヒモ状の卵塊を、うるち田No7と三角池で数多く発見しました。それぞれ無事に育って欲しいものです。

(A: Aゾーン・B: Bゾーン)

月 日	卵塊数	天気等	特記
3月21日(金)	1 (A: 1 B: 0)	晴れ、北西風強し	崩れて孵化中、アズマヒキガエルを確認
3月17日(月)	20 (A: 15 B: 5)	晴れ、暖かな日	A、B 崩れが急増中
3月13日(木)	52 (A: 42 B: 10)	小雨、	Bザリガニ釣り場4個確認、A孵化始まる
3月10日(月)	69 (A: 61 B: 8)	晴れ、北西風強し	うるち田No5 17個、うるち田No7 31個
3月6日(木)	67 (A: 58 B: 9)	晴れ、風強し	うるち田No5 17個、うるち田No7 25個
3月1日(土)	32 (A: 27 B: 5)	小雨	うるち田No5 15個、もち田No3 11個

### アズマヒキガエルについて

アズマヒキガエル(千葉県絶滅危惧種:C)ヒキガエルには2亜種がある。東日本にいるのはアズマヒキガエル、西日本にいるのはニホンヒキガエルである。

ニホンヒキガエル

体長8~18cmでイボが多い

産卵数6,000~15,000卵

アズマヒキガエル

体長4~16cmでイボが少ない

産卵数1,500~8,000卵



アズマヒキガエルの成体

特徴: 日本の固有種。体は丈夫で四肢は短く、背中に大小の隆起がある。鼓膜の上にある耳腺は、大きく発達している。低地から高山まで幅広い環境に生息する。3~4月にかけて仲間が集まり、同時に産卵する。卵はヒモ状で卵の大きさは2~3mm、変態直後は1cm位になる。あまり水に入らないカエルで水辺から遠い地中でも越冬する。地上での行動が多いが、後足が短く、他のカエルのようにジャンプは不得意。鼓膜の後ろの耳腺から毒液をだすので、襲われる危険は少ない。この毒液からつくられたのが、「がまの油」である。繁殖期にはメスを奪い合う激しい戦いを

(藤平三郎・篠崎将)



アズマヒキガエルの卵塊

# 4月の合同作業

## 2014年4月19日(土)実施

田植えの下準備(稲株踏み)と元肥の散布、ホタルの幼虫放流前の準備(餌撒き)、と周辺の清掃作業を行いました。株踏みは田んぼが深いので足が重く、ハードは作業です。肥料は田んぼの面積に合わせて計量して散布しました。(小笠原 智)



稲株踏み作業



肥料の散布(有機肥料と塩化カリ)

## 合同作業以外の春の作業



Aゾーン中央木道の改修完了



Aゾーンの柳の剪定



剪定前

# 春の生きもの観察会

## 2014年5月17日(土)実施

5月17日(土) 10:00～11:30 朝から晴れ上がり風薫る 6月なみの陽気、北西からの風がずっと吹いて寒さは感じません。恒例の生きもの観察会を開催しました。当日は合同作業日でもあり会員も多く集まってチガヤ、ミントの刈り取りと機械による草刈りなどを行いました。

観察会の参加者は児童 11名(名戸ヶ谷小、第三小) その父兄 6名と、名戸ヶ谷小の校長も開始時から様子を見に来られました。始めに簡単な説明のあと、手に手に網を持ってザリガニ釣り場や三角池などを回りアメリカザリガニ、ウシガエルのおたまじゃくし、カダヤシなどを捕まえ容器に入れてじっと見入っ



生きものを探しています



獲った生きものを観察です

ていました。そして、篠崎さんから捕獲した生きものについての説明、外来種のこと、メダカとカダヤシの違いなどを写真を見ながら説明し皆聞き入っていました。事前に用意した仕掛け網にウシガエル成体を捕獲、それらも容器にいれ大きいもので興味深げに見ていました。終わりに篠崎さんが過去に撮った鳥、昆虫、魚、クモ類などの写真多数を希望者へ配布し、児童たちは喜んで持ち帰りました。

父兄には「名戸ヶ谷ビオトープを育てる会」のパンフを渡し無事に終えて、生きものに触れてのひとときの時間だったと思いますが、こうした自然環境の大切さが芽生える事を祈る次第です。

# ヘイケボタル幼虫の放流

## 2014年4月13日(土)実施

4月13日、朝から晴れ上がり気温も平年並みののどかな日となりました。

松清さんが、昨年から飼育した幼虫約 200匹を放流しました。会員 6名が参加して、田んぼ等から餌となるサカマキガイ、カワニナを獲って Bゾーン放流地へ一緒にまきました。以前に Bゾーン放流地で餌となるカワニナの生息状況を確認しましたが、これでは餌が不足であり今後 1週間毎に田んぼから餌の補給を行う予定です。

何とか無事に育って、早ければ6月中旬過ぎからホタルの飛翔を確認出来るかも知れません。昨年よりも多い数を期待したいです。

(昨年 6/30 初日 3匹確認)

(藤平三郎)



幼虫



## ビオトープ 春の花

ビオトープに春の花の季節がやってきました。田んぼの中や畔はかわいい花たちでいっぱいです。

水ぬるむころ、まっ先に咲くのがタネツケバナです。田んぼに緑色が現れ始めると、タガラシやケキツネノボタンの黄色い花びらが光ります。オランダガラシ（クレソン）の白花が目立つころ、貴重種のヒメヘビイチゴが開花してくれます。



タネツケバナ



タガラシ

ビオトープには多種多様な春の花が咲きます。これらの花たちは、ほとんどが雑草と呼ばれています。

そして、これらの雑草と呼ばれる花たちは、日本に昔から生えていたものではなく、外国から入ってきたものと考えられています。

ビオトープの夏をいどる雑草はイネとともに東南アジアあたりから入ってきたものです。一方、春に咲く花は、ムギなどと一緒にヨーロッパや西アジアから入ってきたものと言われています。ホトケノザやナズナもその仲間ですが、その仲間の中で湿地に生えるものが上で述べた花たちです。

こうした大昔に入ってきた植物を「史前帰化植物」と呼んでいます。これに対し、オランダガラシ（クレソン）は近年になって食用として入ってきたもので、いわゆる「帰化植物」の一つです。



オランダガラシ



ヒメヘビイチゴ

外国から入ってきた帰化植物などの雑草に対して、昔から日本に住みついている野草があります。その一つがヒメヘビイチゴです。ヒメヘビイチゴは山に近い場所ではふつうにみられる花ですが、千葉県では比較的少なくなったので絶滅危惧種に指定されています。

様々な花たちが生きているビオトープですが、それぞれちがった歴史をもっています。

(佐々木光正)

# ビオトープと私

## 長谷川 知恵 さん



私はこの名戸ヶ谷ビオトープで育ちました。私が小学生だった頃、授業が終わると、友達と毎日のようにビオトープへ通い、ザリガニやドジョウを捕って遊んでいたことや、学校の行事の際、ここで田植えや稲刈り、脱穀、餅つきをしたことを覚えています。こうゆう環境で育ったせいか、今では理系の大学へ進み、生物と環境に関する勉強をしています。学んでいるうちにフィールドワークに興味を持ち、ビオトープの会に入りました。活動である稲作で苦労さやチームでの達成感、やり甲斐を感じています。

名戸ヶ谷ビオトープの会は、私の祖父母にあたる人たちばかりで、最初は作業に行くのにとっても緊張していましたが、親切に教えてくれたり、話しかけてくれたりして、今では活動日が私の中の楽しみになっています。これから稲作シーズンということで、大変な作業が多くなりますが、学生最後の年なので、できるだけ参加し、若さを生かして積極的に作業に取り組んでいきたいです。ビオトープの会メンバーとして、今後ともよろしく願致します。

### 名戸ヶ谷ビオトープに来てみませんか？

交通：柏市東口より東武バス（1番乗り場）「名戸ヶ谷行き終点（名戸ヶ谷病院前）」下車すぐ

面積：約 4,400 m<sup>2</sup> 湿性生物：57 種 生きもの：161 種（内、千葉県指定保護生物 26 種）

（2013 年、年間を通じて観察した生きものの種類）